

ストップ！かんせんいじめ

こわいきもちやイライラは大人に話そう

ひと 人にむかって **コロナ** **ばいきん** といっているあなた！



い 言われている人がいるのに知らんぷりしているあなた！



どんなにひどくあ
いてをきずつける
ことばかわかって
いますか？

あいてをグーで
なぐるのとおな
じくらいひどい
ことです



こころ からだ おな ことば い
心も体と同じようにひどい言葉を言われるとキズができます
そのキズはずっとなおらないこともあります

そんなひどいことをしている人となかよくなりたいとはだれも思いません



いますぐやめましょう

そうすればみんなは
ゆるしてくれるでしょう

やめない人がいたらそれをとめるのはあなたです
とめるのがこわかったら家族や先生につたえましょう
あなたがひどいことを言われていたらすぐに家族や先生に
そうだしましょう あなたはなにも悪くありません



しん ただ し
新がたコロナウィルスかんせんしょうのことを正しく知らないと、ふあんになつたり、「こわい」と思ったり、イライラしたりします

その気持ちをどうすることもできずに「かんせんいじめ」をしてしまう人がいます

いじめをすることは人をきずつけているだけでなく、新がたコロナウィルスとのたかひのじゃまもしています

わからないことを家族や先生にきいて正しいことを知りましょう

ふあんな気持ちやイライラはそのままだにしないで家族や先生に話しましょう



大人のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症COVID-19の流行に伴い、感染した方、流行地から来られた方、医療従事者やその家族が差別や偏見「感染いじめ」にさらされています。「感染いじめ」は生じやすく背景には多くの要因がありますが、感染症への恐怖や不安もその1つです。「感染いじめ」は深刻な人権侵害であるだけでなく、感染対策の妨げになります。

大人のみなさまには、「感染いじめ」を防ぐとともに、以下を参考にそれを受けた子どもや、行う子どもへのサポートをお願いします。

大人が自身の不安や恐怖をケアし正確な情報を得る

まずは、ご自身の不安や恐怖といった感情をありのままに受け入れケアしてください。インターネットやテレビなどから、大量な情報に触れ続けることは気分を落ち着かなくさせます。情報収集を信頼できる情報源(厚労省、文科省、自治体、国立感染症研究所、国立国際医療研究センター等)に絞ることは安心に役立ちます。

正確な情報がないと不安な人々の間で憶測や疑心暗鬼が増幅して「感染いじめ」につながる場合があります。



子どもの不安や恐怖に気づいて安心を与える



子どもは、不安や恐怖が強いと身体の不調を示したり、攻撃的になったり、退行(赤ちゃんがえり)したりすることがあります。子どもはそうして精神のバランスをとっていることを理解してください。子どもが恐怖、不安、怒りといった感情を安心して言葉にできるようにし、どのような感情も否定することなくそのまま受け止めてあげてください。

子どもには現在の感染流行状況と大人が行っている感染対策、子どもができることを年齢に応じた言葉で説明してください。

子どもが見聞きした「感染いじめ」をその場で否定する

差別的な言動をするまでには、他者の差別的な言動を見聞きする段階、それを正しいことと受け入れてしまう段階があります。

報道やインターネット、身の回りの方々の言動などから、COVID-19に関する差別や偏見に基づく言動を見聞きした際には、子どもにそれは間違ったことであり、人を傷つけることであることをその場で説明してください。



「感染いじめ」を受けた子どもをケアする



子どもから差別的な言動を受けていることを打ち明けられたら、安易に励ましたりせず、まずはよく話してくれたと伝え、子どもの気持ちをじっくりと聞いてください。子どもが傷ついた気持ちを言葉にできることは回復のプロセスになります。

子どもが感染症にかかった場合、その原因を正確に理解できず、自分が悪いことをしたからだ、などと思ってしまうことがあります。決してあなたが悪いわけではないと伝えてあげてください。

「感染いじめ」を止め、行った子どもをケアする

子どもによる差別的な言動を目の当たりにしたときは、ただちにやめさせてください。そして、なぜそのようなことを言ったのか、子どもによく聞いてください。本人も意識していなかった不安や恐怖に気づくかもしれません。

